



本を読むことが、読書なのではありません。自分の心の中に失いたくない言葉の蓄え場所をつくりだすのが、読書です。(長田弘「読書からはじまる」)

北へ、南へ、中央へ、 「打って出る司書」

市町村を 訪問中



スギッチが目印の公用車

図書館のカウンターに座って、利用者からの本の相談に的確に対応している…。このように、静かで知的なイメージをもって「司書」をとらえている人は少なくないと思います。

しかし、県立図書館の司書は打って出ます。「打って出る」の意味そのままに、自ら進んで市町村の図書館や公民館図書室に出向いています。そして、図書館、図書室の運営や利用の状況を聞きながら、困っていることや分からないことに対して、専門的知識と技能、豊かな経験をもとに、親身になってサポートしています。

【5月の訪問図書館（図書室）・・・14館（室）】

訪問のかたち	数	訪問図書館・公民館図書室
市町村図書館等巡回訪問	12	秋田市中央図書館明德館、横手市立雄物川図書館・大森図書館、大仙市立大曲図書館・南外図書館、大館市立中央図書館・花矢図書館、湯沢市立湯沢図書館・雄勝図書館、由利本荘市中央図書館・矢島公民館・鳥海公民館
出前研修 (希望による講師派遣研修)	2	能代市立図書館 八郎潟町立図書館 (6月21日 秋田魁新報で紹介されました)

従来の巡回訪問や出前研修講座等も「打って出る司書」が行いますが、要請によって、数回にわたって訪問したり電話相談に応じたりもしています。こうして、これまでよりも、実情に応じたきめ細やかな対応ができるようになりました。



「打って出る司書」 in 鹿角市立花輪図書館

6月13日(水)、県立図書館司書の成田さんと嵯峨さんが花輪図書館を巡回訪問しました。「地域の実情に応じたきめ細やかなサポート」についてレポートします。



花輪図書館は、大正時代の近代洋風建築の旧鹿角郡公会堂に隣接した、どこか懐かしい感じのする趣のある図書館です。入り口の「ここはみなさんの図書館です どうぞおはいきください」の看板に迎えられ、「打って出る司書」の活動開始です。

武石館長と膝を交えて、実情について話し合いました。平成27年に完成する新図書館の設備についての確認、古文書の解説や保存の課題、専門的知識を必要とする郷土資料に関わるレファレンス対応の難しさなどが話題となりました。

花輪図書館のロビーには、昭和初期の生活用品が展示されています。実は、隣の民俗資料室の活用も課題です。成田さんは、県立図書館や他の図書館での取組を紹介したり、「中性紙の使用」「レファレンス研修」などを提案したりしていました。

子どもの読書活動優秀実践図書館・団体

文部科学大臣表彰

6月7日、優秀実践図書館・団体表彰の報告会が県庁第二庁舎教育庁ホールで行われました。



表彰の報告に訪れた大曲図書館長と読み聞かせボランティア「みんなの森」のみなさん

文部科学省は、平成14年度から読書活動を推進するため、優れた取組等を行っている学校、図書館及び団体（個人）を表彰しています。

平成24年度、表彰されたのは、次のみなさんです。活動内容については、後日、この紙面で紹介します。

- 優秀実践校
 - 北秋田市立鷹巣西小学校
 - 男鹿市立潟西中学校
 - 秋田県立養護学校天王みどり学園
- 優秀実践図書館
 - 大仙市立大曲図書館
- 優秀実践団体
 - 「みんなの森」（活動拠点：湯沢図書館）



活動紹介

横手市

ボランティアによる読み聞かせは、今や、小さな子どもたちだけが対象ではありません。横手市のボランティア「れんげ草の会」は、高校生たちに、「読み聞かせ」の方法と、だれかに読んであげる喜びを伝えています。

5月31日（木）、雄物川高校の2年生（福祉コース15名）の家庭科の授業に、5名のボランティアが講師として参加しました。

1時間目、高校生たちは、ボランティアの読み聞かせで、「繰り返し表現の本」「子どもが参加できる本」「大人の絵本」の違いを味わいました。

2時間目、読みたい絵本を選んで、今度は、高校生が読み聞かせを行いました。「相手に絵が見えるように持つこと」や「聞こえるような声で読むこと」などを助言してもらいながら、とても熱心に取り組みました。

「れんげ草の会」の石川さんは、「高校生たちの読み聞かせは、素直で一生懸命でした。大人たちのような先入観をもたずに、絵本の場面を読むので、小さな子どもたちに伝わるものがあるのだと思います。むしろ、私たちの方が勉強になりました。」と、話していました。



雄物川高校での授業の様子

八峰町公民館図書室の挑戦

平成24年度秋田県図書館大会実践発表から

年間貸出数956冊から8,798冊(9.2倍)、年間利用者数105人から662人(6.3倍)へ。

3年間で、こんな驚くべき変化を遂げたのが、八峰町の公民館図書室です。そこには、いくつもの知恵や工夫がありました。

2階にあった図書室を、入りやすい1階に移転し、窓に図書室であることを大きく表示。地域の子どもの書いた文字の看板を掲げた「子ども図書館」の設置。「図書館だより」の全戸配付や町の広報紙への情報掲載。ロビーを使ったテーマ展示や紹介コーナーの設置など。成果の見られたものを継続し、利用者に声をかけてきた結果です。

この実践発表を聞いていたある図書館職員は、「担当者の熱意が、図書室を変えたんですね。」と感心しながら、大きな拍手を送っていました。



交流司書の
見たり聞いたり



秋田県立
図書館発

はじめまして

とものり
小玉知永

人事交流で県立図書館に勤めて早3ヶ月。当初は大きな図書館での勤務に悪戦苦闘しましたが、現在は基本的な業務にも慣れ、更なるスキルアップを目指して修行中です。限られた時間の中ですが、多くの専門知識と技能を学び、由利本荘市の図書館サービスに生かせるよう頑張っていきます！



秋田県教育庁生涯学習課
生涯学習・読書推進班



URL <http://www.pref.akita.lg.jp/syogaku/>